所定疾患施設療養費(Ⅱ)算定状況

平成24年4月の介護報酬改定により、介護老人保健施設において、入所者の医療ニーズに適切に対応する観点から、所定の疾患を発症した場合における施設での医療について、以下の要件を満たした場合に評価されることになりました。

厚生労働省大臣が定める基準に基づき、所定疾患施設療養費(Ⅱ)の算定状況を公表いたします。

【算定条件】

1. 所定疾患施設療養費(Ⅱ)については、肺炎等により治療を必要とする状態となった入所者に対し、治療管理として投薬、検査、注射、処置等が行われた場合に、1回に連続する10日を限度とし、月1回に限り算定するものであるため、1月に連続しない1日を10回算定することは認められないものであること。
2. 所定疾患施設療養費(Ⅱ)と緊急時施設療養費は同時に算定することはできないこと。
3. 所定疾患施設療養費(Ⅱ)の対象となる入所者の状態は次のとおりであること。
 - ・肺炎
 - ・尿路感染症
 - ・带状疱疹
 - ・蜂窩織炎
4. 肺炎及び尿路感染症については、検査を実施した場合のみ算定できるものであること。
5. 算定する場合にあっては、診断名及び診断に至った根拠、診断を行った日、実施した投薬、検査、注射、処置の内容等を診療録に記載しておくこと。なお、近隣の医療機関と連携した場合であっても、同様に、医療機関で行われた検査、処置等の実施内容について情報提供を受け、当該内容を診療録に記載しておくこと。また、抗菌薬の使用に当たっては、薬剤耐性菌にも配慮するとともに、肺炎、尿路感染症及び带状疱疹の検査・診断・治療に関するガイドライン等を参考にすること。
6. 当該加算算定開始後、治療の実施状況について公表することとする。公表に当たっては、介護サービス情報の公表制度を活用する等により、前年度の当該加算の算定状況を報告すること。
7. 当該介護保険施設サービスを行う介護老人保健施設の医師が感染症対策に関する内容(肺炎、尿路感染症、带状疱疹、及び蜂窩織炎に関する標準的な検査・診断・治療等及び抗菌薬等の適正使用、薬剤耐性菌)を含む研修を受講していること。ただし、感染症対策に関する十分な経験を有する医師については、感染症対策に関する研修を受講した者とみなす。

介護療養型老人保健施設びおら

令和6年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月
肺炎	人数	1	1	1	0	1	1
	日数	10	10	10	0	10	10
尿路感染	人数	4	7	2	6	6	4
	日数	19	47	15	33	45	22
带状疱疹	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0
蜂窩織炎	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0

令和6年度		10月	11月	12月	1月	2月	3月
肺炎	人数	2	1	2	1	1	0
	日数	20	10	12	10	10	0
尿路感染	人数	5	3	3	3	1	4
	日数	36	21	13	23	6	25
带状疱疹	人数	0	0	0	0	0	1
	日数	0	0	0	0	0	5
蜂窩織炎	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0

介護老人保健施設びおら

令和6年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月
肺炎	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0
尿路感染	人数	1	2	0	2	1	2
	日数	5	15	0	10	7	17
带状疱疹	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0
蜂窩織炎	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0

令和6年度		10月	11月	12月	1月	2月	3月
肺炎	人数	0	1	1	0	0	1
	日数	0	9	10	0	0	10
尿路感染	人数	4	0	2	1	1	1
	日数	24	0	10	10	6	10
带状疱疹	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0
蜂窩織炎	人数	0	0	0	0	0	0
	日数	0	0	0	0	0	0